

28年度決算 人口減少に伴う減収 対27年度約13億円減

(経常一般財源(※)ベース。臨時財政対策債を含む)

「住宅市街地総合整備事業」、「市立総合体育館建設事業」などを実施し、市民サービスの充実を図りましたが、人口減少に伴う減収により、極めて厳しい財政状況です。引き続き、事務事業の見直しなど財政健全化への取り組みを推進し、効率的かつ効果的な市政運営を行っていきます。

※経常一般財源…市税や普通交付税など、用途が特定されず毎年経常的に入る財源

一般会計

◆歳入

27年度から約8億2000万円増加しました。
 ※経常一般財源ベース(臨時財政対策債を含む)の約13億円の減収は、右記「経常一般財源歳入(臨時財政対策債を含む)の前年度比較」参照

主な増減内容

- ・地方消費税交付金…約3億4000万円減少
- ・国庫支出金…約9億6000万円増加
- ・繰入金…約6億8000万円増加
- ・繰越金…約3億8000万円減少
- ・市債…約3億8000万円増加

◆歳出

27年度から約8億5000万円増加しました。

主な増減内容

- ・人件費…約2億8000万円減少
- ・扶助費…約8億3000万円増加
- ・公債費…約9億1000万円減少
- ・補助費等…約4億1000万円減少
- ・普通建設事業費…約19億円増加

特別会計

特別会計とは、特定の事業の収入(保険料や使用料など)によって実施する会計です。

◆国民健康保険事業特別会計
 27年度と比べ累積赤字が約5億1000万円減少しました。

◆そのほかの特別会計
 歳入歳出が同額または累積収支が黒字となりました。

水道事業会計

- ◆収入 29億3090万円
- ◆支出 23億4969万円

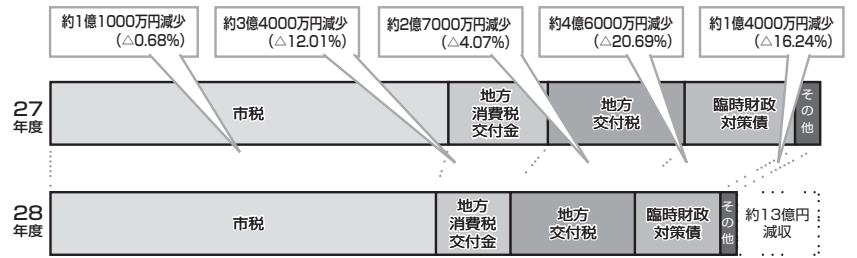
- ・市民1人当たりの1日平均使用水量…307リットル

28年度 各会計別歳入歳出決算

会計名	歳入	歳出	累積収支額(実質収支額)
一般会計	550億1287万円	549億1646万円	793万円
特別会計			
国民健康保険事業	193億7278万円	206億713万円	△12億3434万円
公共下水道事業	66億8835万円	60億7241万円	6億1571万円
都市開発資金	—	—	—
公共用地先行取得事業	3億509万円	3億509万円	—
後期高齢者医療事業	14億6815万円	13億9221万円	7594万円
合計	828億4724万円	832億9330万円	△5億3476万円

※実質収支額(累積収支額)とは、歳入から歳出と翌年度繰り越し財源を差し引いた金額

●経常一般財源歳入(臨時財政対策債)の前年度比較



●市民1人当たりの歳出決算

項目	金額
福祉の充実	23万6884円
地域・文化振興、人権政策や防犯対策	2万9010円
道路等の整備	3万9586円
教育の充実	5万5599円
環境・衛生の向上	2万7876円
消防事業の向上	1万4003円
市債の返済	3万4108円
その他	4743円

●財政健全化指標

地方公共団体の財政の健全性を示す指標です。各比率が基準を超えると、財政健全化計画などを策定し、早期に改善に取り組む必要があります。市の比率はいずれも基準を下回っています。



	門真市	早期健全化基準	財政再生基準	説明
実質赤字比率	—	11.96%	20.0%	標準財政規模(※)に対する一般会計などの赤字額の比率(赤字額がないため、「—」で表示)
連結実質赤字比率	—	16.96%	30.0%	標準財政規模に対する市の全会計の赤字額の比率(赤字額がないため、「—」で表示)
実質公債費比率	6.8%	25.0%	35.0%	標準財政規模に対する一般会計などが負担すべき市債償還金の比率
将来負担比率	59.6%	350.0%	—	標準財政規模に対する一般会計などが将来負担すべき負債の比率
資金不足比率	—	20.0%	—	事業規模に対する公営企業ごとの資金不足額の比率(水道・下水道会計ともに資金不足額がないため「—」で表示)

※標準財政規模…標準的な行政サービスを提供するうえで、市が自由に使える財源の大きさ

問合せ先 財政課 ☎06(6902)5869

フラッシュ門真DEものづくり 27

ちず 智頭電機株式会社

(向島町1-8)

大手企業などの工場の生産設備の設計・製作・保守までの一貫したサービスを行い、日本のものづくりを支えている企業「智頭電機株式会社」をご存知ですか。

今年、向島町で創業65周年を迎える同社の強みや人材育成にかける想いをご紹介します。

企業城下町で

長年培われた技術力

工場にはさまざまな“モノ”を作るための機械や装置が並んでいます。それらいわゆる“生産設備”を設計・製作している智頭電機。オーダーメイド受注となるため、要望に応えられる知識や技術力、ノウハウを持っていることが

重要ですが、その分野において同社は、電気自動車用電池の生産設備など最先端分野のほか、多岐に渡る要望に対応できる技術力を有しています。「それは地元企業であるパナソニック株式会社様からのさまざまな要望・相談に応えながら技術的指導を受けて育てられてきた結果」とのこと。今では、国内大手企業の海外進出先の生産設備の設計・製作に携わるなど世界を舞台に活躍しています。

ロボットの専門チーム

「RTグループ」

近年普及しつつある産業用ロボットですが、生産設備に組み込むには専門知識が必要となります。現在、この知識を持った企業は国内でも不足していると言われていますが、智頭電機では7年前からロボットを活用した生産設備の提案を開始しています。支えているのはロボット専門チーム「RTグ

キラキラとした笑顔でEnjoy Work! 後ろにはロボットを使った生産設備も!



ループ」の存在です。このチームの働きで、ロボットの特性を活かした提案ができるようになり、より多くの実績を積み重ねることができました。また、ロボットメーカー主催の検定には毎年たくさんの合格者を出すなど、社員教育にも力を注ぎ自社の強みを伸ばしています。

めつけんでもええと思うんですよね」と芦谷社長。海外の拠点に社員を派遣して、いろいろな経験も積ませています。社員こそが“財産”であり、その社員が好きな仕事をできる環境づくりを志している社長、その想いを受けた社員が智頭電機を支えています。



「僕はいいから社員メインで取材してください」と社員想いの芦谷社長

社員一人ひとりが

“主役”になる人「財」育成

同社は生産現場に携わることが多く男性の職場と思われがちですが、設計担当の3分の1は女性が占めています。「保育士をめざしていた女性が、ひょんなことから同社へ入社し3D図面を描いています。『女性には事務仕事』と決



女性も活躍する設計部門